情報工学科　年　番　組

**レポート課題＜9-5　対人魅力について＞**

対人魅力とは、お互いにお互いがお互いをどうみているか。どのような好感が持て、どんな魅力があるのか、ということである。ではその対人魅力には何があるか。まず、身体的魅力として、初対面の人は、例えば野原に咲く綺麗な花のように、外見が魅力的であるほど好意を持たれやすい。清潔感がある人と不潔な人、いつも笑顔の人といつも無表情の人。どちらも大概の人は前者の方が、好感が持てるので外見は大切であると思われる。身体的魅力以外にも近接性があり、よく顔を合わせたりするほど親密な関係になりやすいとフェステンガーなどが明らかにしている。顔を合わせ会話も生まれれば、より親密な関係になり、その会話がその人にとって有意義な話や楽しくさせる話、もしくはその人にとって良いプレゼントがあるならば、なおさら好感度はあがるだろう。このような近接性の効果は単純接触効果によっても説明でき、人は誰かとたくさん会えば会うほど好きになりやすいとされている。さらに近くに入ればいるほど好意を持ちやすいのは言うまでもないだろう。近接性の他に類似性というものがある。知り合って少し経ち、顔を何度も合わせるようになるとコミュニケーション量が増えていき、お互いの趣味、嗜好、考え方などが自分と類似しているかどうか。また、自分はそれに対して好感が持てるかどうかを考えるようになり、特に態度が似通っているかどうかという点が重要となってくる。バーンとネルソンの「見知らぬ他者」という実験では、お互い顔も名前もわからない人同士で話し合いなどをし、自分はその人に対してどの程度好感が持てるか、というのを測定したところ、少なくとも態度しか手掛かりのない状況では、自分と似た態度を持つ人ほど、好感が持てるというものであった。

以上のことより、私は、対人魅力はまず外見からはいり、次に内面の性格や考え方、趣味、嗜好などに共感や親近感を抱くことだと考える。(824文字）